

Title	文芸学研究 第10号 2005年度活動報告
Author(s)	
Citation	文芸学研究. 2006, 10, p. 131-132
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/46095
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2005 年度活動報告

『文芸学研究』第9号合評会 2005年6月25日 大阪大学

第23回研究発表会 7月23日 神戸女学院大学

鳴り響く《母語》の形式

——オタカル・ホスチンスキーの「民族性 *národnost*」の理念について

中村真

18世紀における『マクベス』の魔女絵画の変容

高木範子

第24回研究発表会 9月10日 神戸大学

雑誌『ドキュマン』のテキストとイメージについて

——バタイユとブルトンにおける視覚

唄邦弘

物語的理解と自己同一性

——ポール・リクール『時間と物語』を中心に

萩原康一郎

メルロ＝ポンティにおける芸術の発生の次元

平田思

第25回研究発表会 12月23日 大阪大学

ノヴァリナ演劇における否定性

——『飛行する工場』をめぐって

井上由里子

シラー美学と古代幻想
——女神ユーノーの石のまなざし

長野順子

国（文）学への反乱
——岡崎義恵の日本文芸学の構想

濱下昌宏

第 26 回研究発表会 3 月 25 日 同志社大学
1860 年代前後のボードレール
——『悪の華』の底にしずめられた影

山崎聡

中期ルルケの言語観とそれに関わる問題についての一考察
池田まこと

スタイルの歴史性に関する考察
——ロジャー・フライの “Children’s Drawings” を中心に
要真理子

『文芸学研究』第 10 号発行 3 月 31 日